

北のとびら

vol. 97

平成25年9月



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

アートフェスティバルに行こう!

ハルカヤマ藝術要塞2013

フォト・エッセイ

柴 幸男

この人に注目

小林 エレキ

柴田 智之

街歩きアート

木の温もりと

アートの風を感じながら歩く

[東川町]

自主事業レポート

表紙作家の紹介



DATA

ハルカヤマ藝術要塞2013（北海道文化財団まちの文化創造事業）
日程：平成25年9月8日（日）～10月5日（土）
会場：小樽市春香町
（JRバス「西春香」下車徒歩2分／国道5号線スノークルーズオーンス
入り口より小樽より約100mの場所に看板あり）

入場料：無料
※来場時は虫避け対策を。降雨後や雨天時は長靴持参で。
問い合わせ：
会場 ☎090-4873-1921（渡辺）
事務局 E-mail: nobuachi@gmail.com（阿地）



●参加アーティスト

阿地信美智、荒井善則、泉修次、
上嶋秀俊、下沢敏也、菅原尚俊、
田中裕子、中橋修、並沢淳一、
野口裕司、野村裕之、端聡、
藤本和彦、渡辺行夫 ほか 53 名

鬱蒼たる木々の間に、廃墟の瓦礫の上に、海を見晴らす斜面に。溶け込むように、対立するように、会話するように。小樽と札幌の狭間に頂を持つ春香山の麓、かつての観光ホテルの名残を留めた約9000坪の荒地のそここに、2011年9月、彫刻・立体造形・インスタレーションを主体とした多様な作品が展示されました。これが第一回の「ハルカヤマ藝術要塞」です。今年9月8日から始まる「ハルカヤマ藝術要塞2013」は、二回目の開催となります。

「踏み分け道をたどって作品を探し、雨が降れば泥にまみれ、そうやって『能動的に見る』というのは美術館ではないこと」。渡辺さんは、その楽しさがリピーターの多さにつながったと考えています。また、「作家も、何もかもが用意された空間ではなく、下草を刈って空間を作るところからスタートする。どこまでをどう使うかも自由。新しい挑戦の楽しさがある」

緑の中に残された建物の残骸、庭園の面影を偲ぶ石垣や落ち葉に埋まった池。石狩湾の眺望。隣地に残された、北海道を代表する彫刻家・本郷新の旧アトリエ。作品制作の場所を探していた小樽在住の彫刻家・渡辺行夫さんは、この地で「インスピレーションをバシバシと受けた」といいます。地権者の許可を得て、整地を始めたのが2009年のこと。地域のひとと語り、旧アトリエの保存に努め、作品を少しずつ展示し、渡辺さんはアートな空間を創る

と語ります。

二回目の開催となる今年、参加アーティストは67名に増えました。「前回は上回る多様性、作品レベル、規模が期待できる。『山の中でのアートはどうあるべきか』について、それぞれが出した答えをぜひ見てほしい」。作家が山で遊んだことで生まれるアート空間を、探し眺めて山を遊ぶ。創る側も見る側も「山遊び」する、新しいスタイルの野外展「ハルカヤマ藝術要塞」の試みに、各方面から注目が集まっています。



制作中のカピラヤスオさんの作品「月柱」。左手前は、アイヌの古式に倣ってカムイに掛けられたイナウ。

特集 アートフェスティバルに行こう！

ハルカヤマ藝術要塞 2013

緑あふれる山で、畑に走る風を受ける林で、街の歴史を刻む校舎で。近年、北海道各地で盛り上がりを見せているアートフェスティバルから、小樽市春香町の山麓で行われる「ハルカヤマ藝術要塞2013」をご紹介します。

7月20日（土）からはプレ会期として公開制作を実施。写真は「大地開墾」をテーマに制作中の檜原武正さんの作品（7月22日撮影）。この後、作品はどのような変化を遂げているだろう。

フォト・エッセイ①

文／写真 柴 幸男 Yukio Shiba



地に足がついてない、ではなく正しくは、足が地についてない、だそうですが、飛行機に乗っては北海道へ、船に乗っては小豆島へ、移動し続ける今年の僕は、まさに地に足がついていない存在だと思っています。

どうして「地」なのでしょう。きっと「地」にだけ、時間の蓄積ができるのだと思います。地方に行くと、その土地で長く活動を、生活をしている人たちに出会います。彼らは、僕にないものを持つています。それは時間が、足から「地」に伝わり、蓄積して、生まれたものです。例えば、信頼、家族、仕事、責任のようなもの。足を地につけ、それらを育てるところこそ、大人の役目なのかもしれません。

また「地」とは、「島」なのかもしれないと思います。小豆島も、北海道も、日本列島も、地球も、大きさが違うだけで、ひとつの



柴 幸男（しば ゆきお）
劇作家・演出家・ままと主宰

1982年生まれ、愛知県出身。「青年団」演出部所属。「急な坂スタジオ」レジデント・アーティスト。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第2回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。何気ない日常の機微を丁寧にすくい取る戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。全編歩き続ける芝居『あゆみ』、ラップによるミュージカル『わが星』、一人芝居をループさせて大家族を演じる『反復かつ連続』など、新たな視点から普遍的な世界を描く。あいちトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭への参加、市民劇の演出、学校での授業など、全国各地にて活動をしている。

島。小さな島で起こった問題は、きっと、いつか大きな島でも起こるでしょう。

今年、僕たちが小豆島で活動をするのは、子供たちがいなくなつてしまった廃校。誰もが地に足をつけなくなつて、誰もが大人になることを先延ばししたら、僕らの「島」はどうなってしまうのだろう。なんて、子供もいない、地から足を浮かせばなしの、僕は、無責任に、考えるのです。

地から足を浮かして、思うこと

北海道文化財団まちの文化創造事業

帯広市

風と森の共振 「防風林」アートプロジェクト 2013

昨年実施された「帯広コンテンポラリーアート2011 真正閣の100日」に続く、現代アートを体感するアートプロジェクトです。平成25年9月1日(日)～平成26年2月16日(日)の期間中、複数の企画が実施されます。

柱となるのは、造成が進む「帯広の森」と、十勝の風土の象徴である農地の「防風林」、この二カ所の野外会場での試み。9月1日からは、「帯広の森」にある掩体壕（戦時中、戦闘機を隠すために建設された壕）の内部で、森で間伐された樹木を使い、市民とともに飛行機をイメージしたオブジェを公開制作します。平成26年2月1日からは防風林で、アーティストによるインスタレーション展示や体験活動を実施。野外展示全体の俯瞰映像を撮影して公開する試みも行われます。



上／「帯広の森」内にある掩体壕。
下／野外アート展の会場となる防風林。

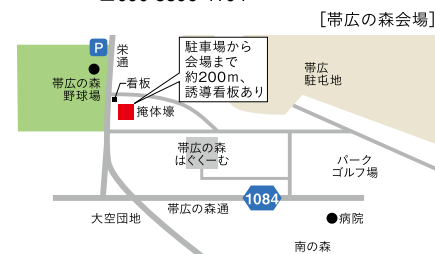


◎オブジェの公開制作
日程：平成25年9月1日(日)～11月30日(土)
会場：「帯広の森」掩体壕(帯広市南町南9線49番地)

◎防風林に囲まれた雪原での現代野外アート展
日程：平成26年2月1日(土)～2月16日(日)
会場：防風林(帯広市愛国町東1線9)

【同時開催】
サテライト展「参加作家小品展」
会場：帯広市民ギャラリーA(帯広市西2条南12)

問い合わせ：帯広コンテンポラリーアート実行委員会事務局
☎090-3396-4104



北海道文化財団まちの文化創造事業

白老町

飛生芸術祭 2013 「僕らは同じ夢をみる―」 ―飛生芸術祭5周年記念事業―

「飛生芸術祭」は、昭和61年に廃校となった飛生小学校の校舎を制作・発表の場として、27年に渡り活用する「飛生アートコミュニティ」が、平成21年から開催しているイベントです。今年は、校舎や周辺の森を会場としたアート展示やライブコンサート、ワークショップに加え、過疎高齢化が進む地域の新たなシンボルとなるトーテムポールのお披露目や、地域の過去・現在・未来を体感する「タイムトンネル」展が実施されます。

飛生アートコミュニティには、若手アーティストのほか地域・年齢・経歴もさまざまなメンバーが集い、周囲の森をアート空間にしていく「飛生の森づくりプロジェクト」や地元小学生とのワークショップ、美術教室といった地域づくり・地域交流に積極的に取り組んでおり、飛生芸術祭はそれらの成果発表の機会となっています。

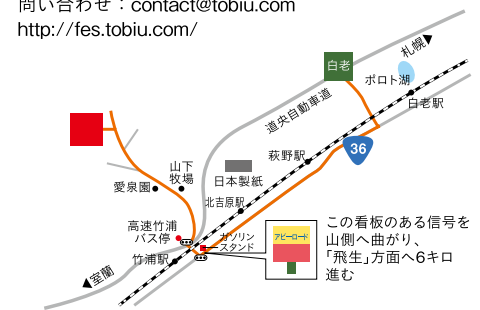


上／昨年の「森づくりプロジェクト」参加者一同。
下／「ARTIST in 竹浦小学校『歌う！星のこどもたち』富士翔太郎 + CHUVA CHUVA + 竹浦小学校のこどもたち」。

撮影者／高張直樹



日程：平成25年9月8日(日)～9月15日(日)
会場：飛生アートコミュニティ(白老町字竹浦)
問い合わせ：contact@tobiu.com
http://fes.tobiu.com/



柴田 智之

Tomoyuki Shibata



「柴田が芝居に戻ってきた!」。今年2月、介護の実体験を脚本化した柴田智之さんの一人芝居「寿」は、札幌の演劇関係者に喜びをもって迎えられました。

劇団千年王國の看板俳優として活躍していた柴田さんは、「与えられる役や作品への違和感が強くなって」退団。介護職に就いたものの表現への欲求は衰えることなく、絵画制作と個展、音楽制作とバンド活動、ダンスパフォーマンスと、領域を変化させつつ表現活動が続けてきました。「自分の中に伝えたいこと・表現したいものがあって、方法はなんでもよかった」と柴田さんは言います。

転換点は、2012年の個展の最終日に上演した無言劇。自身で書いた脚本から音楽を創作してもらい、そこにパフォーマンスを合わせたこの芝居で、「これまでやって

きたこと、点だったものが線でつながった。自分のやりたいのは、やはり舞台づくりだ」と感じたそうです。

憧れの劇団からの全国ツアー同行の誘いを、幼い息子のことを考えて断ったという柴田さん。「悲しかった。でも『夢の全国ツアー』という部分は自分で実現できる」と、「寿」のツアー公演を企画しています。江別・札幌・函館での上演を終え、「次は青森。鳥取、福岡での上演も考えてます」。柴田さんは模索の時を終え、新たな飛躍の時を迎えようとしています。

■出演予定
12月23日(月・祝)／柴田智之とモノノケユースケの“妖怪記念日”(音楽・ダンス・演劇のフェスティバル)
会場:Peace Piece Door
(北海道札幌市手稲区手稲本町2条4丁目8-20キテナ松井ビル2F)
問い合わせ:sibata.tomoyuki@gmail.com(柴田)

小林 エレキ

Ereki Kobayashi



このところ芝居づくりに勢いを見せている劇団yhsに、1998年の第二回公演から参加。その自主公演・フェスティバル等での公演はもちろん、他劇団への客演、ローカルCMや短編映画への出演など、近頃めざましく活躍しているのが小林エレキさんです。大学を卒業後、サラリーマンと俳優の二足のわらじを履いていましたが、2010年、俳優業に一本化。「表現に関する仕事ならなんでもやってみたい」と、昼は専門学校の講師として発声や芝居づくりを教え、夜はライブバーで怪談を語り、経験を積んでいます。

活躍ぶりについて、「僕の年齢では、昼間も役者をできる人間がいないから」と謙遜しますが、yhsが得意とするコミカルな役から狂気の殺人犯まで、その演劇は「最近、

キレがある」と関係者の間で評価されています。

昨年5月には大阪の劇場「in→dependent theatre」が主催する一人芝居フェスティバルの札幌版で、yhsの代表・南参さんの演出による太宰治脚本「駆け込み訴え」を熱演。好評を博し、昨年11月には大阪、今年7月には仙台で再演となりました。

雑学大好きのインドア派ですが、「リアルに演じるには実体験が大切、これからはどんどん外に行く。一人旅もしてみたい」とのこと。俳優として貪欲に成長中です。

■出演予定
10月12日(土)・13日(日)／飛ぶ劇場vol.34「大砲の家族」
11月29日(金)～12月2日(月)／yhs「四谷美談」
会場:生活支援型文化施設コンカリーニョ
(札幌市西区八軒1条西1丁目 ザ・タワープレイス1F)
問い合わせ:NPO法人コンカリーニョ ☎011-615-4859



2004年、横浜・野毛坂大道芸フェスティバルに師と仰ぐ吉本大輔さんの誘いで出演。



17歳から独学で絵画を制作。



2012年に上演した無言劇「天ノ川ワタレ」の1シーン。



「札幌演劇シーズン2013冬」の、劇団イナダ組公演「ライナス」の1シーン。過去のトラウマに囚われた妻子持ちの男を好演。



2012年9月、yhsの15周年記念公演「つづく、」のパンフレット。局地的な氷河期に見舞われた札幌へ取材に来るTVディレクター役で出演。

木の温もりと アートの風を感じながら歩く 〔東川町〕

大雪山連峰の懷に抱かれた東川町は、自然が織りなす景観美と木工業が盛んなことで知られる町。美しい風景と心安らぐ環境に惹かれるアーティストも多く、町内にはさまざまなギャラリーや工房が点在しています。文化や伝統を引き継ぎながら新しい魅力を発信する東川町をアートの息吹を求めて歩いてみました。

彫刻の館

農民彫刻家として多くの作品を残した、故松田与一氏のギャラリー。木彫やブロンズ像など、300点にも上る作品を展示。彫刻に情熱を注いだ同氏の足跡に触れることができる。

●東川町西7号北27
☎0166-82-3030
10:00～16:00
不定休
(事前に電話確認を)



平田とうふ店

道産大豆、大雪の伏流水、天然にがりを使った、こだわり豆腐が自慢。お昼には売り切れることも。

カレーとコーヒーの店 ギャラリーまるめ3の木

絵画やクラフト作品を展示するほか、貸しギャラリーでは写真展を主に開催。種類豊富なカレーや大雪の伏流水を使ったコーヒーが人気。

クラフト街道

家具や陶芸、写真などのギャラリーが点在。隠れ家を訪ね歩くようなワクワク感がある。

木魂

オリジナル家具から、壁掛け時計や小物入れなどのクラフト作品まで、幅広く製作。オーダーも可能。

クラフト蒼

身近な自然をモチーフにした木製クラフト作品を展示・販売するほか、東川町を撮影したモノクロ作品の展示も。

鈴木工房

道産のナラやクルミを用いた雑貨や小物、玩具などを製作・販売している。日曜日に予約制で木工教室を開催。

北の住まい設計社 café & bakery

ムク材を使った家具づくりを手掛ける工房の敷地内にあるカフェ。地元の旬の食材を使ったパスタやピザ、スイーツなどを味わえる。隣接するショールームでは家具などの展示・販売も行っている。

●東川町東7号北7線
☎0166-82-4556
10:00～18:00
水曜休



ギャラリーズビヤク

鳥がモチーフの木製モビールやヤジロベエ、照明などのほか、子ども用の椅子の製作・販売も。

東川町文化ギャラリー

町の文化やアート活動の拠点。道内外の写真家による作品展を中心に、年間を通じて企画展やイベントを実施している。

●写真甲子園2013本戦作品展
写真甲子園本戦大会で高校生が撮った写真を展示。
日時:9/7(土)～9/12(木) 10:00～17:30(展示最終日は～15:00)

●大使たちの写真展
在日大使館の大使や大使館職員が撮影した日本の写真を展示。
日時:9/14(土)～9/26(木) 10:00～17:30(展示最終日は～15:00)

【写真文化によるまちづくり】
東川町は1985年に「写真の町宣言」を行い、同年から「東川町国際写真フェスティバル」を実施。8月～9月にかけての期間中、写真をテーマにした各種イベントが開催され、多くの人が町を訪れる。
中でも、全国から500以上の高校写真部・サークルが参加する「写真甲子園」は、東川町の夏の風物詩。本戦大会では東川町周辺を舞台に腕を競い合う。




工房宮地

シンプルで飽きのこないデザインの椅子や使いやすい家具を製作。オイル仕上げの無垢の家具は使い込むほどに味わいが増す。

ギャラリー+ カフェ zen

故・佐藤忠雄氏をはじめ、道内外の陶芸家の作品を展示。ランチセットやスイーツが楽しめるカフェでは、作品を食器として使用している。

むう工房

ナラ材、ウォールナット材を主に用いた、シンプルでデザイン性の高い家具やクラフトを常設展示。

彫刻「望み」

東川町役場の前庭に展示されている松田与一氏の彫刻作品。夫婦と子どもの三体の像からは、家族の情愛や絆、大地に根ざしてたくましく生きる生命力が感じられる。



道の駅ひがしかわ 「道草館」

「ひがしかわクラフト・ギャラリーMAP」など、東川町の観光情報を提供している。館内にはアンティークカメラなどの展示コーナーも。

東川町役場
東川小学校
道の駅ひがしかわ「道草館」
東川郵便局

アート&クラフト BAU 工房

木工作家として活躍する大門厳氏と息子の和真氏の工房兼常設ギャラリー。木の持つ個性を引き出し、機能性と遊び心を兼ね備えた家具は、まるでアート作品のような楽しさにあふれている。

●東川町西町9丁目4-1
☎0166-82-2213
9:00～17:00
日・祝休




木彫看板

東川町のメインストリート、道道1160号を中心に個性あふれる木彫看板が並ぶ。全部で約90もあるという看板は、町の活性化のために、1986年から作られてきた。いずれも職人が技を駆使して彫り上げた力作揃い。



生まれてくる命に椅子を贈る 「君の椅子」プロジェクト

「誕生する子どもを迎える喜びを、地域で分かち合いたい」。そんな願いを込めてスタートした「君の椅子」プロジェクト。プロジェクトに賛同した東川町が2006年から町内で生まれる全ての子どもに椅子を贈呈。贈られる椅子のデザインは毎年異なり、旭川家具の職人が製作する。現在は、剣淵町、愛別町、東神楽町も参加。大雪山連峰の裾野にある町々を中心に、ゆっくりとその輪が広がっている。

■歴代の「君の椅子」製作職人

2006年	大門 厳	(アート&クラフトBAU工房)
2007年	宮地 鎮雄	(工房宮地)
2008年	向坊 明	(むう工房)
2009年	大門 厳・大門和真	(アート&クラフトBAU工房)
2010年	服部 勇二	(木魂)
2011年	宮地 鎮雄	(工房宮地)
2012年	服部 勇二	(木魂)
2013年	向坊 明	(むう工房)



撮影/飯塚達夫(フォトシーズン)

雄大な森と豊かな水の恵み
自然と文化が共生する町

大雪山の豊富な森林資源と清涼な水に恵まれた東川町は、かけがえのない環境を守りながら、文化や芸術を継承しようという精神が育まれてきました。

近年は家具やクラフト、写真などのギャラリーが増え、道道1160号沿いと山側のクラフト街道を中心に、40近くのギャラリーが点在。アート散策のスポットとして注目を集めています。カフェが併設されているところもあり、気軽に立ち寄れるのも魅力です。

また、街の中心に並ぶ木彫看板や、農民彫刻家として生きた松田与一氏の作品など、屋外アートを探して歩くのも、ひと味違った楽しみ方でしょう。

大雪山を背景に自然と人々の生活が調和し、新たな文化を生み出す。それが、東川町の魅力の源になっているのです。

至 旭岳・
天人峽

表紙作家の紹介



Waterside

蒲原みどり 美術家・ビジュアルデザイナー

Midori Kambara

北海道生まれ。札幌を拠点に作品制作を行う。ビジュアルデザイナーとして広告デザイン、イラストレーション制作の他に、本の装丁デザイン、挿絵を手掛ける。

【主な作品展示】

2011年

『蒲原みどり個展』（札幌／カンディハウス札幌道央支店）

『蒲原みどり個展』（札幌／ギャラリー創）

2012年

『蒲原みどり個展 Garden』（札幌／イタリアンレストランΦ）

アートフェア「ULTRA005」（東京／青山スパイラルガーデン）

2013年

『MIDORI KAMBARA Exposition 蒲原みどり個展』（パリ／Miki MIALY）



【主な受賞】

2012年

アートフェア「ULTRA005」ベストウォール賞（東京／青山スパイラルガーデン）

【主な装丁デザイン】

『図書館の子／佐々木譲』（HAJ出版）

『五十嵐淳／状態の構築』（TOTO出版）

『五十嵐淳／状態の表示』（彰国社）

『生きているから生きてゆける／曾田雄志』（HS出版）

『北海道のバラづくり／工藤敏博』（北海道新聞社）

◎北海道文化財団アトスペース企画展

蒲原みどり展

日時：平成25年8月5日（月）～9月30日（月） 9:00～17:00（土・日・祝日は休館）

会場：北海道文化財団アトスペース（札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F）

入場料：無料



記憶の庭

◎自主事業レポート アート体感教室

長谷川仁×様似中学校美術部『夜の展覧会』

7/29（月）～8/3（土）

照明を灯した作品を美術家の長谷川仁さんと作るワークショップに、様似中学校の美術部員13名が参加。完成した作品は中学校の校舎や校庭に設置して、「夜の展覧会」として地域の方に一般公開されました。作品を設置するとその場の見え方が変わることで、美術という行為で物事の見方を変えられることを子どもたちに体験してもらいました。



◎7/29（月）

夏休みの教室に集合した子どもたちは、少し緊張した様子。まずは長谷川さんが、作品をプロジェクトで紹介し、出会ったことのない美術に、「驚きでした」「ドキドキしました」と、期待で少し気持ちがほぐれたようです。



今回は、様似町の「アボイの火祭り」で披露される「ねぶた」からヒントを得て、電球を使った照明作品を作ります。イメージを膨らませるために、制作中のねぶたを見学後、アイディアづくり。どんな作品にしようか、どこに置こうかと、難しい顔をしながら学校を歩きまわる子どもたち。アイディアを一人ずつ発表した後、宿題として持ち帰りました。

◎7/30（火）



アイディア発表の後、長谷川さんからアドバイス。「よいものを作るためには、何を、なぜ作るかを考えることが必要で、納得がいけば、後は形にするだけ。作りたいという気持ちがあるまま最後までモチベーションを持続さ

せてくれる。だから、大変でももう少し考えてみよう」

手を動かして作るだけではなく、色々な情報を拾い集め、それをもとに考えることも、作品制作の一部。今日もアイディア出しに費やされました。

◎7/31（水）



一生懸命考えてきたアイディアを、木と針金と竹と和紙で形に。カエル、シカ、ヒトダマ、ビエロなど、誰も作ったことがないので試行錯誤の連続です。

◎8/1（木）



とにかく全力で手を動かします。木で大きな形を作り、細かな曲線は全て針金で表現。固い針金を切って曲げてを繰り返して、中に電球を設置して、そこに和紙をひたすら貼る作業です。早い子は色塗りを始めました！

◎8/2（金）

「夜の展覧会」当日。作品が完成した子は、まだの子をお手伝い。みんなで展覧会

を作り上げていきます。

◎8/2（金）・8/3（土）

各日19時～21時

「夜の展覧会」

2日間で約130名ものお客さんが来場。同級生、家族や先生、地域の方々が、「すごい！」「うわあ、驚いたあ」「どうやって作ったの？」と楽しんでくれました。印象的だったのは、それを見ている子どもたちの表情が輝いていたこと。長谷川さんと過ごした1週間が、これから先も彼らの胸の中で輝いてくれるに違いありません。



文／一般社団法人A・I・S・Pランニングコーディネーター 小林竜太郎

※アート体感教室事業

国内外で活躍するアーティストを道内各地に派遣し、各地の子供たち（児童・生徒）を対象とした体験型ワークショップや、アーティストとの共同制作等の交流を行うほか、アーティストとともにいうミニライブや展覧会を通して、豊かな想像力や表現力の育成を図る事業です。

財団事業インフォメーション（平成25年9月～10月）

アートゼミ事業



柳本雅寛ワークショップ 参加者募集

国内外で活躍する振付家・ダンサーの柳本雅寛氏を講師に迎え、道内のダンサーとともに7日間にわたる作品創作ワークショップを実施。最終日にショウイング（発表）を行います。

柳本氏の作品世界を支える数々の手法を実践的に学ぶ絶好の機会となりますので、ぜひご応募ください。

日程：平成25年9月30日（月）～10月6日（日）

会場：ターミナルプラザことばトラス

（札幌市西区琴似1条4丁目 地下鉄琴似駅B2階）

参加料：無料

応募資格：現在ダンサーとして活動している方
（原則全日程参加できる方）

募集定員：10名

問い合わせ：公益財団法人北海道文化財団

☎011-272-0501

※募集要項・応募用紙は財団ホームページ
（<http://haf.jp>）からダウンロードしてください。

若手芸術家発表事業

当財団が推薦する若手演奏家（HAFアーティスト）によるコンサートです。

能登谷安紀子（ヴァイオリン）コンサート

▶増毛町公演

日時：平成25年10月10日（木）19:00開演（30分前開場）

会場：増毛町文化センター（増毛郡増毛町南皇中町2丁目25）

入場料：一般 500円 高校生以下 無料

問い合わせ：増毛町教育委員会 ☎0164-53-2427

▶豊頃町公演

日時：平成25年10月24日（木）19:00開演（30分前開場）

会場：える夢館はるにれホール（中川郡豊頃町茂岩本町166）

入場料：一般 500円 中学生以下 無料

問い合わせ：豊頃町教育委員会 ☎015-579-5801

トリオアンジュエコンサート

小林佳奈（ヴァイオリン）、長谷川加奈（ヴァイオリン）、
谷敷さなえ（ピアノ）

▶むかわ町公演

日時：平成25年10月20日（日）18:00開演（30分前開場）

会場：四季の館（勇払郡むかわ町美幸3丁目3-1）

入場料：無料

問い合わせ：むかわ町四季の館 ☎0145-42-4171

▶上ノ国町公演

日時：平成25年10月29日（火）18:30開演（30分前開場）

会場：上ノ国町総合福祉センタージョイじょぐら

（檜山郡上ノ国町大留100）

入場料：無料

問い合わせ：上ノ国町教育委員会 ☎01395-5-2230

文化の宅配便事業



ユニット・リトルバレエ 「誰でもわかる楽しい クラシックバレエ」公演

バレエの代表的な作品を踊るほか、その歴史や練習風景の解説も行います。子どもから大人まで楽しめるバレエ公演です。

日時：平成25年9月18日（水）13:35開演（13:00開場）

会場：喜茂別町立喜茂別小学校（体育館）

（虻田郡喜茂別町喜茂別336）

入場料：無料

問い合わせ：喜茂別町教育委員会 ☎0136-33-2203



金子竜太郎公演 「和太鼓コンサート」

和太鼓集団「鼓童」の元メンバーで、現在、国内外でソロ活動を行う金子竜太郎による和太鼓コンサートです。「太鼓の一人オーケストラ」と称される太鼓群の妙技、脱力中心の「ゆるみ打法」から生まれる豊かな響きをお楽しみ下さい。

日時：平成25年10月9日（水）18:30開演（30分前開場）

会場：月形町多目的研修センター（樺戸郡月形町1219）

入場料：無料

問い合わせ：月形町教育委員会 ☎0126-53-2376

文化交流事業（助成事業）

飛ぶ劇場 vol.34

「大砲の家族」（作・演出 泊篤志）

2003年、北九州芸術劇場オープン初年度のプロデュース公演として上演された『大砲の家』【作：泊篤志／演出：内藤裕敬（南河内万歳一座）】が、10年の時を経て「飛ぶ劇場」版として蘇ります。隣接した2国間の争いを描いた本作がタイトルも新たに『大砲の家族』となって大胆リメイク。飛ぶ劇場、2009年の「睡稿、銀河鉄道の夜」以来、4年ぶりの札幌公演です。



主催：飛ぶ劇場／NPO法人コンカリーニョ

日時：平成25年10月12日（土）18:00開演

13日（日）14:00開演（30分前開場）

会場：生活支援型文化施設コンカリーニョ

（札幌市西区八軒1条西1丁目 ザ・タワープレイス1階）

入場料：一般前売2,800円 当日3,000円

学生前売2,000円 当日2,200円

問い合わせ：NPO法人コンカリーニョ ☎011-615-4859